

第5号議案 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

今後農業者の減少が更に進み、現在多面的機能支払交付金を利用している水路や農道の草刈り作業などにも労力不足などの問題が発生することが懸念されます。そのための対策などを年1回以上話し合うことが、当交付金を受給するために必須の活動となっています。

須恵深田畑総地帯活動組織の現状と問題点

昨今の、地域の過疎化や農家の減少・高齢化に伴い、農業者だけで農地や農道の草刈り等の作業を実施しても労力不足が発生している。

又、土地柄が、農地の畦畔や法面の面積が広く傾斜もきついため、草刈り作業には危険が伴い経費も大きい。

対策

・地域住民の非農家の方にも、共同施設(農道)の草刈り作業に参加してもらおう。
(非農家の方の意識の向上をはかる。)

・大型機械を利用し、農道の草刈り作業の省力化を図る。

具体的な活動

・年1回以上、地域住民のかたにも作業に参加してもらっている(上手地区、加茂地区、など)。

・大型機械を持っている農業者のかたに協力していただき、農道の草刈り作業の省力化を図る。又、農業支援センターのアーム型草刈り機の作業を外注している。

みんなで守ろう
農村環境

